

# 展示構成

※会期中、一部作品の展示替えがあります

## 第1章 始動：第3の洋画団体誕生

小杉放菴、梅原龍三郎、岸田劉生、三岸好太郎ほか

## 第2章 展開：それぞれの日本、それぞれの道

森田恒友、足立源一郎、萬鉄五郎、林俊衛ほか

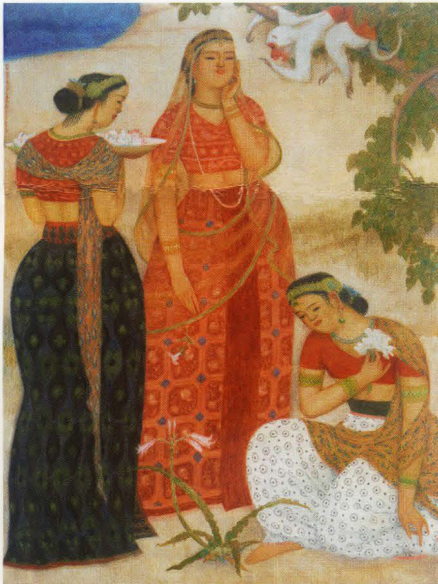
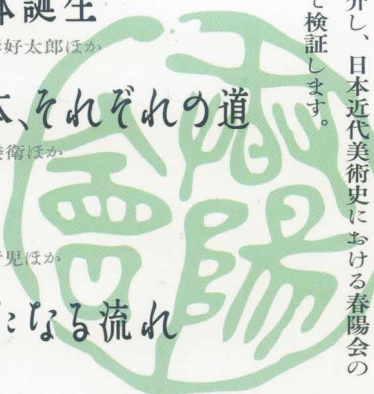
## 第3章 独創：不穏のなかで

石井鶴三、木村荘八、長谷川潔、島海青児ほか

## 第4章 展望：巨星たちと新たなる流れ

駒井哲郎、岡鹿之助、中川一政ほか

一九二二年、再興院展洋画部から脱退した小杉放菴、山本鼎、森田恒友、長谷川昇らと、草土社の岸田劉生や木村荘八らを中心としたメンバーによって春陽会が発足し、翌二三年に第一回展を開催しました。それぞれの個性を重視する各人主義をうたい、梅原龍三郎や萬鉄五郎などの著名画家を揃え、油彩、水墨画、素描をジャンルの隔てなく紹介するなど、その宣言通り「芸術は形式で差別されない」ものでした。春陽会では、西洋の最先端の美術動向に眼を向けて精力的に紹介しようとするともに、自らの内面にある風土的なものや土着的なもの、日本的なものや東洋的なものを表現することを意識する画家が次々に登場します。「日本人の絵画」への志向は、春陽会の大きな特徴の一つといえるでしょう。結成から一〇〇年を迎えた春陽会は、いかにして時代と連動しつつ、発展をとげ、今日に続く足場を築いたのでしょうか。本展では草創期から一九五〇年代頃までに活躍した画家たちの作品を中心に約二〇〇点の名品を紹介し、日本近代美術史における春陽会の意義を改めて検証します。



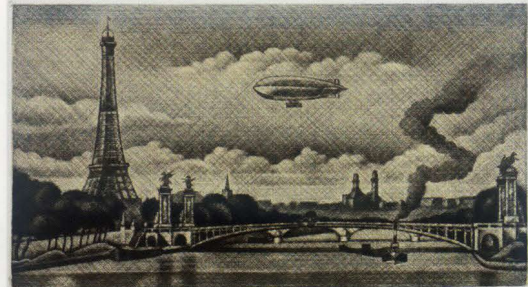
小杉放菴《羅摩物語》1928年、東京国立近代美術館蔵



岡鹿之助《群落(A)》1962年、東京国立近代美術館蔵



樺貞雄《朝子像》1927年、平塚市美術館蔵



長谷川潔《アレクサンドル三世橋とフランスの飛行船》1930年、碧南市藤井達吉現代美術館蔵



岸田劉生《麗子弾絃図》1923年、京都国立近代美術館蔵



南城一夫《鯛の静物》1927年、群馬県立近代美術館蔵



三岸好太郎《少年遁化》1929年、東京国立近代美術館蔵

【関連イベント】①リレー・ギャラリートーク〈各館の学芸員による作品解説〉1月13日 [土] 15:30〜/会場：企画展示室/講師：田中晴子氏（東京ステーションギャラリー学芸室長）、鈴木幸野氏（長野県立美術館学芸員）、田邊咲智氏（碧南市藤井達吉現代美術館学芸員）②対談「小杉放菴と日光」1月14日 [日] 14:00〜/会場：集会室/講師：入江観氏（洋画家・春陽会会員）、土方明司氏（川崎市岡本太郎美術館館長）/定員：80名・先着順 ③ギャラリートーク〈担当学芸員による作品解説〉2月4日 [日]、3月3日 [日] いずれも14:00〜/会場：企画展示室 ※①②③ともに要当日観覧券、事前申込不要

【同時開催】コレクション展IV「かたちのチカラ」2024年1月13日 [土]〜3月3日 [日]

【宇都宮美術館のご案内】次回展：イヴ・ネットハママー 2024年3月10日 [日]〜5月12日 [日] ※詳細は宇都宮美術館へお問い合わせください。TEL.028-643-0100 ※メンテナンス休館：2023年12月25日 [月]〜2024年2月29日 [木]



【交通案内】  
○電車・バス  
・JR東京駅から東北新幹線にて約50分  
・JR宇都宮駅（西口6番・7番バス乗場）、東武宇都宮駅から「関東バス作新学院・駒生行き」で約15分「桜通十文字」バス停下車 徒歩5分  
○自家用車  
・東北自動車道鹿沼ICより約10km、約20分  
・北関東自動車道壬生ICより約13km、約25分  
\*駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

**栃木県立美術館**  
Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts

〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7  
TEL.028-621-3566  
<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

